

にっこうさん

奈良時代に安井と青岡にまたがって、青岡大寺という古いお寺が建てられていました。このお寺に、戦国時代の終わりに、名高い「にっこうさん」というおぼろさんがおりました。

ちょうどその頃、土佐（高知県）の長曾我部元親が萩原の地藏院に本陣をおいて、西讃（香川県の西の方）の寺々を焼き打ちにしました。青岡大寺にも長曾我部の軍勢が攻め入り、大きなお堂に火をつけました。火は、たちまちに日暮れの空をこがすように、メラメラともものすごい勢いで燃えあがりました。腕に自信のある「にっこうさん」は、お寺の本尊さんや宝ものをもちだそうと右に左に走りまわりましたが、手のつけようがありません。もうどうしようもないと思った「にっこうさん」は、本堂の前に仁王立ちになって、目をランランと輝かし、大門に立つ人影めがけて攻め入りました。

やがて、長曾我部の武将と格とうが始まり、組んで、転がり転がりすること数分間、住職を助けようとはせつけた侍が、「住職は上か下か。」と二度三度どなりました。しかし、悲しいことには「にっこうさん」は急ぐとすらすらものがいえない生まれつきの吃音でした。そのため、敵将は「わしが住職だ。」と名乗ったと思っただけに一命をおとしてしまいました。

翌朝になって、灰になった大寺を訪れた青岡、安井の里人は思いがけない「にっこうさん」の冷たいなきがらを見つけて一層悲しみに包まれました。「にっこうさん」のなきがらを丁寧



むり、吃音であつたことを一層気の毒に思いました。

現在、頂懸神社の南の水田の中に二三平方メートルほどの台地が残されており、そこに「にっこりさん」としてたてまつり、吃音の人がお参りするとなおるといい伝えられています。

〈茨木小三郎〉

『ふるさとむかしむかし』大野原町より